

平成 21 年 11 月 27 日

行政刷新会議「事業仕分け」の結果に対する見解

北海道経済連合会
会長 近藤龍夫

このたびの行政刷新会議の「事業仕分け」の結果に対し、特に北海道経済の自立的発展に向けた地域の取組みに関する国の支援事業 2 点についての見解を述べるとともに、今後の政治判断による事業の継続を切に望むものである。

1. 北海道総合開発推進調査費について

北海道総合開発推進調査費は北海道開発法に基づき制定された北海道総合開発計画を推進するにあたり、北海道の資源・特性を活かしながら、北海道経済の自立的発展を図るために必要な先駆的・実践的な調査を実施するものである。

本調査費は、これまで、産業クラスター創造プロジェクトの立ち上げ、広域分散型社会における広域医療の導入、雪氷冷熱やバイオマス等のクリーンエネルギーの活用など様々な分野において北海道の底上げに先導的な役割を果たしている。

具体的には、国の支援を受けた産業クラスター活動については、平成 10 年度からスタートし、道内 31 地域にクラスター研究会が立ち上がり、地域の特性を活用したさまざまな活動が活発に展開されており、実用化・事業化の支援を行った事業の売上累計総額が 10 年間で新たに 200 億円の成果を生み出している。

北海道は食糧供給力や豊かな自然環境などの観光産業を通じて、我が国の持続可能な経済社会を先導する重要な地域である。しかしながら北海道の経済・雇用情勢は全国に比べ依然として厳しい状況が続いている。北海道経済の自立的発展を図るとともに、北海道が国の諸問題の解決に一層貢献・寄与していくためには、北海道の優れたポテンシャルを発掘しその実現を図る本調査事業は必要である。

しかしながら、本年 11 月 24 日の行政刷新会議の事業仕分けにおいて、本調査費については「自治体または民間の判断に任せる」との評決結果が示されたところであるが、本調査費は北海道の将来の自立的発展に繋がるプロジェクトの発掘・実現のために不可欠な予算であり、引き続き国による本事業の継続を求めるものである。

なお、調査事業について「重複排除」の指摘があったが、本事業は他省庁・民間の基礎的な調査研究を踏まえて、プロジェクトの出口としての事業化・実用化を図るもので、指摘は該当しないものとする。

2. 文部科学省関連事業（地域科学技術振興・産学官連携）について

鳩山首相は所信表明において「科学技術の力で世界をリードする」と述べられている。グローバル化の進展等により企業間・地域間の競争がより一層激化してきている中、この過酷な競争に勝ち残っていくためには、研究開発の促進による科学技術力の向上とその成果の実用化・事業化への取組みが不可欠である。地域経済の活性化にお

いても、大学や公設試験研究機関等の知的資産（研究者の知識、ノウハウ、研究成果、特許等）は重要な要素であり、その積極的な活用が必要となる。

これまで北海道では、“大学の知”を活用した産学官連携による取組みを道内各地で積極的に展開してきた。そのうちの今回の仕分けで「廃止」との評価を受けた文部科学省の「地域科学技術振興・産学官連携」項目の中の知的クラスター創成事業（Ⅱ期）「さっぽろバイオクラスター“Bio-S”」、海洋生物の有効成分の持続的生産を目指す「函館マリンバイオクラスター」事業、また酪農・畑作といった十勝型アグリバイオクラスターの形成を目指す「都市エリア産学官連携促進事業（発展型）」についても、“大学の知”を活用して地域経済の活性化を目指すものである。

特に「さっぽろバイオクラスター“Bio-S”」は、平成19年から5年間の予定でスタート（約6億円/年）した事業であるが、北海道の基幹産業である一次産業の優れた素材の健康機能性に注目し、北海道大学医学部・札幌医科大学・旭川医科大学を中心とした科学の力を活用し、その機能性の解明、特に免疫・アレルギー・認知機能・代謝機能の改善につながる高機能食品、特定保健用食品、化粧品、医薬品原料の開発について、現状一定の中間評価を得つつあり、今後の成果が期待されている。（これまでの成果として、動脈硬化の脂質代謝異常のバイオマーカーの発見、細胞を可視化する蛍光ソルバトクロミック色素の合成、機能性食品のヒト介入試験モデルづくり、などの成果が生まれつつある。）

また、同事業に含まれている函館や十勝のプロジェクトについても、事業途中で廃止した場合、地域産業の成長の芽を摘み取り、その発展を阻害するばかりではなく、地域のやる気・意欲を喪失させることとなり、その影響はきわめて大きい。

以上のような点から、当会は「地域科学技術振興・産学官連携」の予算確保を強く要望するものである。

なお、当会としては今後、民主党に対して本見解に基づく要望を実施する予定である。

以 上